

安積高等学校 久保田範夫（八十八期）

安積は平成二十八年度に創立百三十二周年を迎えますが、夏目漱石が

漱石は、明治三十八年四月から翌二十九年三月まで愛媛県尋常中学校

「愛媛縣松山中学校」となっていました(…)

太郎氏（明治二十六年二月～十一月）は、その後、愛媛県尋常中学校の第

と横地氏は松山で共に過ごした期間があるのです。こうして、築百二十

このことは、安積創立百周年（昭和五十九年）の際の地元紙（福島民

– 1/8 –

事務局長橋本文典氏（八十四期）に御指摘をいただき、今回、改めて調べてみました。横地氏は金沢藩士出身で、開成学校から東京帝大理科（化学）を卒業。前任の住田昇校長が排斥運動で辞職した半年後に嫌々校長を継いだとされます。校長として漱石と重なるのは明治二十九年二月から三月迄のわずか二か月間ですが、横地氏は明治二十八年頃、松山中学の教務主任、教頭を務めたとされるので、漱石と横地は約一年間を一緒に過ごしたことになります。横地氏は、後に山口高等商業学校（後に新制山口大学経済学部構成母体となる）の校長となった実力のある教育者だったようです。

近藤英雄氏「坊ちゃん秘話」（昭和六十年）によれば、中学の主席教諭西川忠太郎、沢幸次郎、中村宗太郎、横地石太郎等、複数の人物が赤シャツのモデルとされてきました。漱石自身は「私の個人主義」の中で「当時其中学に文学士と云ったら私一人なのだから、赤シャツは私の事にならなければならん」と語っていますが、これは、赤シャツが漱石自身というよりも、若い教師たちから文学士である自分が煙たがられていないかといった不安の反映であると同時に、東京帝大出を鼻にかけて権力を振りまわすようなことが教育界にあつてはならないことを同窓の者達に警告しているのだ、とする説もあるようです。

愛媛県立松山東高等学校

ところで、松山東高校の歴史は大変古く、明治十一（一八七八）年愛媛県松山中学校と改称、この年を創立年としているので、安積よりも六年古いのですが、更にそのルーツを辿ると、文政十一（一八二八）年、松山藩主松平定通が設けた藩校「明教館」にまで遡ります。この講堂は、昭和

十二（一九二七）年、旧松山中学校の敷地の一面に移築され今日に至っているのですが、松山中学の本館・講堂等は昭和九（一九三四）年に火災で焼失したため、明教館のみが明治の雰囲気を保っています。この学校で、よしふる正岡子規や秋山好古（陸軍大将、後に北予中学（現松山北高）校長を務めた）さねゆき・真之兄弟等多くの著名人が学びました。秋山兄弟と言えば、NHKスペシャルドラマ「坂の上の雲」（二〇〇九年十一月二十九日から二〇一一年十二月二十五日まで足掛け三年に亘って放送された）を想起する人が多いはずですが、その時も安積旧本館でロケが行われました。

余談になりますが、安積も高山樗牛や朝河貫一博士、二代続いた京都大学総長（新城新蔵・小西重直）、芥川賞作家三名を輩出（安積の他には、都立九段高校（安岡章太郎ら、現千代田区立九段中等教育学校）、都立日比谷高校（庄司薫ら）、私立麻布高校（北杜夫ら）の全国で三校だけと聞いています）等、多くの素晴らしいOB・OGがいますが、松山東高校出身者も多士済済です。

漱石門下の安倍能成を始めとして、「ノボさん」こと正岡子規からの流れもあり、河東碧梧桐、高浜虚子、中村草田男、石田波郷等の俳人が多く、他にもノーベル文学賞受賞の大江健三郎や早坂暁らの小説家・脚本家を輩出。更には映画監督の伊丹十三、「太陽にほえろ！」の山さん役で知られた俳優露口茂らも。マスコミ関係では、コラムニスト天野祐吉、武内陶子・首藤奈知子（NHKアナウンサー）らを輩出しています（ここでは紹介しきれませんが、アナウンサーの多さには驚かされます。）

また、安積と同様、「文経武緯」を掲げて高いレベルの文武両道を目指しており、昨年春の甲子園に二十一世紀枠で出場したことを覚えている

る方もいらっしやるでしょう。平成十三（二〇〇一）年に、二十一世紀
枠最初の学校として出場した我が安積も松山東高校に続いて、甲子園の
内野スタンドを覆う「銀傘」に安積の校歌や「紫の旗のゆくところ」等の
応援歌の数々を響かせたいものです。

仙台と「漱石文庫」

御存知の方も多いと思いますが、安積からも毎年多くの生徒が進学す
る東北大学の所在地仙台と漱石とは強い繋がりがありますので、そのこ
とに少し触れたいと思います。東北大学附属図書館には「漱石文庫」が
あります。図書館ホームページによりますと、夏目漱石の旧蔵書、日記
・試験問題・原稿等の自筆資料、その他漱石関係資料等から構成されて
おり、漱石旧蔵書のほとんどを収め、洋書約一六五〇冊、和漢書約一二
〇〇冊の図書が文庫の中心で、洋書の中には漱石が英国留学時に購入し
た約五〇〇冊の図書も含まれているとのこと。この文庫が東北大学
に譲渡されることになったのは、当時の附属図書館長で、漱石の愛弟子
でもあった小宮豊隆（一八九四～一九六六）の尽力によるところが大き
いとされています。搬入は、昭和十八年（一九四三）から始まり、昭和十
九年三月に完了しました。漱石山房があった東京の早稲田南町は、昭和
二十年三月十日の所謂東京大空襲（下町空襲、死者十万人以上、罹災者
百万人以上）で焼けましたから、この漱石研究の重要資料は、仙台の地
に移されたことで焼失を免れたこととなります。

因みに、昭和四十六年（一九七一）に『漱石文庫目録』が作成され、
また、仙台文学館（青葉区北根）開館に伴い、仙台市と共同でマイクロ
フィルム化を進め平成九年度末に完了しているようです。

それにしても、東洋的倫理と漢文学、そして英文学から学んだ高度な近代的知性という異質な土台の上に築かれた漱石文学の世界は、人間の奥底に潜むエゴイズムの追究といった近代的テーマを始め、森鷗外とともに他の追随を許さない近代文学史上の巨峰であり、没後百年の今年、改めてその作品をじっくり読み直し、彼の偉業を偲びたいと考えています。そして、芥川龍之介とともに新思潮派（理知派）として活躍した久米正雄や、中山義秀を始めとする芥川賞作家を三名輩出した安積から、漱石に匹敵するような文学者が現れることを強く願っております。

安積の野球についても少しだけ

ところで、この原稿を書いている時点で、第98回全国高等学校野球選手権福島大会は、県立光南高校の最後の粘りもむなしく、県北地区の私立高校（登録メンバー二十人の内県内出身は五人、先発メンバーの県内出身は若松五中と平三中の二人のみ）が十年連続十三回目の出場を決めました。光南のバッテリーは塙中学校出身、他のメンバーも矢吹、須賀川、白河、西郷、棚倉、古殿といった県南地区の出身で、決勝が行われた開成山野球場は、観衆のほとんどが光南の出場を後押ししているような雰囲気包まれていました。

今年の我が安積も、一回戦〇6―0葵（旧会津女）、二回戦〇9―5郡山商、三回戦〇4―1会津工と順調に勝ち上がり、十八日にベスト八をかけて古豪磐城戦に臨みました。奇しくも、磐城高校は本年創立百二十周年を迎えて七月十三日に記念式典があり、私が県高等学校長協会会長として祝辞を述べてきたばかりでした。祝辞の最後に、協会長としてではなく安積の校長として、「二年前の安積百三十周年記念の招待試合

において、サッカーは安積が勝ったが、野球は●7―8で安積が敗れている。そのリベンジを果たしたいと生徒も私も考えている。三回戦では必ず、磐城は福島北を破り、安積は会津工を破り、十八日の開成山球場でお会いしましょう。磐城は春の県大会準優勝、胸を借りるつもりで対戦を楽しみにしています。」と磐城関係者にメッセージを残してきました。

私の言葉どおり開成山対決になったのですが、安積の春の地区大会・県大会等でのバッティングの好調さ、また夏の予選が始まってからの両チームのピッチャーの調子等からすれば、どちらが勝っても、4―3か6―5くらいのスコアを予想していたので、●0―10という六回コールド負けには大変悔しい思いをしました。生徒たちには、磐城に惨敗したこの悔しさをバネに、秋の大会、そして来年の夏に向けて精進してほしいと思っています。

野球の話題をもう一つ。

今年は、安積・安積黎明野球定期戦が十回目を迎える節目の年でありました。過去の対戦成績は、安積の六勝三敗。ここ一、二年、プロ野球独立リーグ・ルートインBCリーグの福島ホープス等の試合もあり、土日の開成山球場はほとんど借りられない状態で、試合は平日の五月十日（火）。この定期戦は、両校のPTA関係者が中心となって運営されてきた経緯があるのですが、今年は様々な偶然が重なりました。安積のPTA会長は吉田雅彦君（百一期）ですが、昭和六十一年、私が母校安積の教諭として赴任し、最初に国語を教えたのが長嶺力夫先生率いる百一期の生徒たちでした。また、安積黎明の校長は、私と安積で同期の源後正能（まさたか）君（八十八期）、彼は芥川賞作家玄侑宗久こと橋本宗

久君と同じ二組、私は隣の吉田清蔵先生の三組。（余談ですが、当時は文型一〇三組、理型四〇九組、理数科十組の編制で、野球を始め主だった運動部の生徒は、ほとんどが文型クラスにいました。）そして、昭和三十一年度生まれの私たちは共に今年度末で定年退職予定、という状況の中で、あの両校長が睨み合い火花を散らすポスターになったということです。両校長の公式コメントは、

源後「定期戦？負けるわけがない！」、

久保田「安積は我が道を行く。ふつ、7勝目か・・・」

だったのですが、もっと面白くしたいという百一期（前後）のOB達（野球部OB含む）が、（早慶戦のポスターをかなり意識して、）

源後「あれ、勉強しかしてないと思ってましたよ安積さん」、

久保田「野球場よりコンサートホールがお似合いですよ、黎明さん」という裏バージョンを作成、こちらがインターネット上を拡散していき、

ました。（それにしても安積のOBは凄いなと思ったのは、「いいかい、いいかい、ドライでは駄目だがんね！」と私があまり目立たないところにコメントを入れたのですが、これをあの世界史の竹花栄明先生の言葉だと喝破し、コメントした方がいたのです。）それはともかく、源後君の始球式（バッターは久保田でした）で試合開始、我が校は直前の春の地区大会で敗者復活戦に回ったために五月三日まで六試合を戦い（優勝した日大東北は三試合）、更に五日から定期戦前日の九日まで校内で合宿をして、まさに疲労困憊の状態だったようです。結果は、御存知のとおり、●4―7で黎明に勝ちを譲りましたが、来年は勝ってくれるはず。

（それにしても、今年の安積は、磐城戦といい、黎明戦といい、地元開

[illegible]

（今回の原稿と同趣旨の内容を、今年度発行の「東京桑野会会報No.38」

[illegible]